

令和元年度 実施事業の概要

施設名: 国立妙高青少年自然の家
教育事業名:「MYOKO チャレンジ 2019」 ～山を越え、自分を超越る。一生忘れない仲間と一生忘れない 13 日間～
期間:事前キャンプ:令和元年7月 13 日(土)～7月 14 日(日) 本キャンプ :令和元年7月 29 日(月)～8月 10 日(土)
対象及び参加人数:小学校5年生～中学校3年生 17 人
目的: ○「社会を生き抜く力」の育成のためのプログラム開発と成果の普及 ○統合型長期移動チャレンジキャンプの成果の普及 ○参加者の変容を見取るための評価とその結果について、質的・量的データを提供する。 ○参加者にとって分かりやすい情報提供の在り方など体験活動のユニバーサルデザイン化を図る。
事業概要: 本事業は、子供達の「社会を生き抜く力」を育成するために実施した 12 泊 13 日の長期キャンプである。またこのキャンプは、統合型キャンプとして、性別や障害の有無等に関係なく、様々な個性や特性をもつ子供達が、自然への挑戦や他者との協働を通して、「社会を生き抜く力」を育成することをねらいとしているキャンプである。活動場所は、信越トレイル(全長約 80km)と、妙高戸隠連山国立公園の一部である笹ヶ峰・火打山・妙高山である。テント泊をしながら生活し、大自然の困難な状況の中でも、様々な活動を仲間と協力しながら乗り越えていくことで社会を生き抜く力の育成をする。
成果 ○ステージごとに主活動を変更するのではなく、「歩く」という活動を繰り返すことで、歩くペースや歩き方などを自分達で考え、実行することができた。 ○キャンプの構造化とスタッフの受容共感的なかかわり方によって、参加者が活動プログラムに取り組みやすくなり、グループの主体性の向上につながっていった。 ○困難な状況においても、自分で考え、仲間と話し合いながら、あきらめずに乗り越えていく姿があった。 ○グループの中で自分の役割を果たそうと努力したり、助けが必要な場面で仲間を支えながら活動したりしていた。 ○感謝の気持ちを素直に言葉で表現したり、文章で伝えたりする姿があった。 ○自分の苦手や短所を克服しようと努力したり、必要に応じて他者に助けを求めたりする姿があった。 ○自立のステージでは宿泊場所の選定や宿泊道具のパッキング・運搬等全て自分達で行うようにしたことで、子供達のかかわりが多く生まれ、自主的に行動・判断する姿が多くみられるようになった。
課題: ・安全対策の強化(雷対応とエスケープルートの確保等)。 ・効率的にキャンプを実施するための体制作り。